

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：6年 3月 18日

事業所名：はあーとふるスポーツクラス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	50㎡以上の活動スペースを用意し、十分に動ける範囲を確保できている	十分に確保できている	現状で十分に活動スペースは確保できている。支援用具や運動の道具が増えた時などに活動スペースの妨げにならないように今後注意していく
	2 職員の適切な配置	適切に配置されている、人員基準+1名程度の配置で運営している	適切に配置されている	療育プログラムの性質上、基本的に少人数の先生での対応になるので、今後も同様の人員配置で行っていく
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	教室の構造化には、注力しており、視覚的な刺激がないかなどを常にチェックしている	訪問したことがないのでわかりません	構造化は常に検討し、良い案が出れば即時反映をしながら進めていく
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	掃除は毎朝と毎晩の2回必ず行っている、換気も1時間に1回10分行っており、空気清浄機も24時間稼働している	清潔感がある	清掃には力を入れているので、今後も同様に清掃を怠らさずに行っていく
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎日、必ず職員同士でのフィードバックを行っている		毎日のフィードバックは必ず続けていく
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	外部の事業所や相談支援員にも積極的に事業所見学に来てもらっている		今後もたくさんの事業所や第三者に支援現場の見学をしていただくとともに、市外の方へも案内をだしていく
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	新人研修をはじめ、定期的に指導技術の研修や発達についての研修を行っている		研修の機会を今年度よりも増やしたいと考えている
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	常に客観的な視点を重要視しており、経験則や主観に偏らないように心掛けている	回答者の92%が「はい」と回答	客観的な支援計画の作成には知識が必要であるため、職員の研修に力をいれ、より具体的に適切な支援計画が立てられるよう努めていく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	最初から集団に入るのが難しい児童は個別ブースからスタートするなどして、計画を立てている		児童の現状把握の正確性を追求しながら今後も同様の支援を続けていく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	児童の特性や現状を客観的に把握し、脳機能面から支援目標や支援内容を決定している		これまでと同様に基本的には脳機能面からの客観的視点を重要視するとともに、それ以外の点でも具体的な項目の設定ができるように努めていく
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	毎日の打ち合わせで、必ず個別の目標確認や当日の課題の進め方を確認している		毎日の打合せで、それぞれの支援目標の確認を今後も続けていく
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	個々で役割分担を行い、授業のパーツの組み立てを行っている		フィードバックや打合せの時間を使い、可能な限り全職員が参加してプログラムの立案や改善ができるように環境設定をする
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇時は季節イベントやおでかけイベントを行ったりもする		長期休暇時のイベント開催は今後も継続していく
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	大枠は変わらないが、中身にどれだけ変化を持たせるかを試行錯誤している	回答者の100%が「はい」と回答	今後も大枠は変わらない予定であるが、中身の更新は継続して行っていく
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎日必ず打ち合わせを行っており、常勤、非常勤に関係なく全員が確認できる場を設けている		打合せにて今後も同様に継続していく
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	翌日に必ずフィードバックを行っている		毎日のフィードバックは今後も続けていく
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	HUGのシステムを使用し、記録をしている		HUGを使用しながら今後も継続していく
11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	保護者とは電話やLINEを通して、連絡を取り合い、基本は対面での面談やモニタリングを行っている		個別支援計画の期間内であっても、支援計画の変更が必要だと感じた際には保護者へ連絡を取り、モニタリングを随時行っていく	
1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	教室長が必ず参加するようになっている		教室長は今後も継続して参加するが、全職員が同様の知識を持てるように研修の機会も増やしていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有	園や事業所と直接連絡を取り合ったことはないが、保護者面談や相談支援員との連絡をとる中で情報共有をお願いしている		今後も必要だと判断した際には積極的に関係機関との連携を図っていく
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	今のところ実績なし		
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	市の開催する、連携会議などへ参加し、その際に他事業所や専門機関からの意見を受け、参考にしていく		来年度は今年度以上に交流の場への参加や研修への参加をしていきたい
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	今のところ実績なし	わかりません。	
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	同法人でカフェを運営しており、その場所で地域住民同士が交流する場面が多い		スポーツクラス主体でのイベント活動なども行っていきたい
	保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に行っている	回答者の100%が「はい」と回答
2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		個別支援計画を用いて、保護者の方が理解できるように説明している		HUGのシステムでいつでも個別支援計画の確認ができるため、今後もHUGの使用を継続していく
3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施		LINEや電話で悩み等を相談された際、相手が求めていれば助言をすることもある		保護者の方が必要とする場合は、今後も継続して行っていくが、事業所本意での実施になりすぎないように気をつけていく
4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底		連絡帳やLINE、電話を使用し、頻繁に連絡を取るよう心掛けている		今後も連絡帳やLINEを利用して、情報の共有を行っていく
5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施		電話やLINEで頻繁に相談されることがある	回答者の88%が「はい」と回答	相談された場合には持てる知識の範囲で適切な助言を行っていくが、事業所側の自己満足にならないように注意していく
6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		今のところ実績なし	わかりません。	今後、行う予定はないが、必要だと判断した場合には実施も検討する
7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応		苦情があった際は遅くとも翌朝に会議を行い、問題の早期解決に努めている	回答者の76%が「はい」と回答	今後も、即時対応を心掛けていく
8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮		LINEや電話など、保護者の方が使用しやすいツールを使用している	回答者の96%が「はい」と回答	LINEや電話を使いながら今後も続けていく
9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信		ブログや連絡帳を通して発信している	回答者の88%が「はい」と回答	紙ベースでの会報の導入を検討中
10 個人情報の取扱いに対する十分な対応		十分に対応できている	回答者の92%が「はい」と回答	重要な事項については特に厳重に保管する
	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	契約時に行っている	回答者の80%が「はい」と回答	契約時の説明と定期的な説明を今後は意識していく
	2 非常災害の発生に備えた、定期的避難訓練、救出その他必要な訓練の実施	避難訓練を実施している	スタッフの先生方はされていると思いますが、本人は経験していないとのことでこの回答としました。土曜日しか通所していないのでわかりません。	避難訓練の実施回数を増やし、漏れのないようにする

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止研修を定期開催し、常に虐待への意識が薄れないように心がけている		今後も定期開催を続けていく
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束が予想される場合は予め伝えている		組織としての決定事項を定期的に確認し、対応の違いがないように注意していく
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	今のところ実績なし		今後該当者が出てきた際には十分に注意して対応の検討をする
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	報告書の作成や定期的な事故防止研修を行い、共有できるようにしている		ヒヤリハットの報告書は引き続き作成、漏れのないように注意していく